

「基本を大切に」「やればできる」大好き一中

私の通う第一中学校は、眼下に瀬戸内海を望み、三原の東に位置する全校生徒108名の小さな学校です。でも、うちに秘めたる闘志とパワーはこの学校にも負けません。そして何より、みんな仲がよいです。1年生から3年生まで知らない人はいません。それぞれ、お互いに大切な友達であり、先輩、後輩です。私は、こんな一中が自慢です。みんな、毎日学校へ行くのが楽しく、勉強に、部活動にと頑張っています。

そんな学校生活の中で、先生方がよく「基本を大切に」「やればできる」と叱咤激励してくださいます。これらは、当たり前で簡単なことのように思えますが、なかなか難しいことです。私は時に、つい面倒になり、楽な方に流されそうになることがあります。しかし、いつもそのたびに、友達や先生から手をさしのべられ、軌道修正することができました。

そんな中、嬉しい事がありました。それは、先日の市内大会において、人数の多い大きな学校に劣ることなく、各部とも高成績をあげることができたことです。それは、まさに日頃頑張ってきたことが実を結んだということです。コツコツ頑張れば結果はあとからついてくるのです。そしてこれは部活動だけではなく勉強にも言えることだと思います。私は今年3年生です。あと半年もすれば受験という現実がまっています。でも大丈夫、先生方の教えである「基本を大切に」「やればできる」の一中スピリットで乗り切って見せます。そしてこの一中スピリットは後輩へと代々受け継がれていくと思います。

がんばろう一中生！…輝こう一中生！
大好き第一中学校！



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第18回 —

幸崎に輝く伝統

幸崎中学校は年々生徒数が減り、現在、全学年で53名という小さな学校です。しかし、そのような中でも長い間受け継ぎ、守られてきた伝統があります。それが、郷土芸能「獅子太鼓」です。

私たちの学校には「郷土芸能班」があり、毎週体育館に集まって練習をしています。そして、毎年3月に行われる能地春祭りでは披露しています。能地春祭りは100年以上も続いている幸崎伝統の祭りで、ふとんだんじりや獅子太鼓で大漁祈願をしています。また、この祭りは、平成7年に広島県無形民俗文化財にも指定されました。私たちの郷土芸能班は、その伝統を守る活動です。この活動は、多くの方々と協力し、地域との絆を深めることにもつながっています。また、学校行事においても、入学式で獅子太鼓を披露し、新たな後輩も加わって活動の輪を広げています。これからも伝統をしっかり守るために頑張って活動していきたいです。

もう一つの伝統に、全校群読があります。毎年11月に行われるみつわ祭（文化祭）で平家物語などの群読を発表しています。専門の先生をお招きして何度も練習をします。文章を覚えるだけでも大変ですが、太鼓や拍子木の音を取り入れるなど、たくさん工夫をします。練習は簡単ではありませんが、みんなの気持ちがあひたりと揃った時の感動には大きなものがあります。精一杯練習して今年も素晴らしい発表にしたいと思っています。

私は、この幸崎中学校の伝統ある活動に誇りを持って参加しています。これからもこの伝統を守り、後輩たちへと受け継ぎながら、新しいことにも挑戦し、この幸崎中学校をさらに発展させていきたいと思っています。

